

令和2年議会評価【過去5回の評価結果分析】

1. 過去5年の評価結果の推移からその傾向を判断する。
2. 傾向を踏まえ、その要因を分析する。
3. 今後に向けて取り組みを強化すべき項目等を確認する。
4. 評価項目の見直し等が必要な事項を確認する。
5. 令和元年中の活動内容を振り返る。

大項目	小項目	H26	H27	H28	H29	H30	傾向	分析の視点	分析結果	R1
市民参加	市民からの意見の吸上状況	3	3	3	4	4	上昇	・上昇の要因	【要因】議会報告会からの意見を活動に生かす姿勢が議員に定着したため。 【改善点】今後は「5」に向けて、 4年という通任期を踏まえた議会全体の方針に基づいた市民懇談会等複数の手法を用いた広聴計画が必要。	4
	市民の議会参加状況	3	3	3	4	4	上昇	・上昇の要因	【要因】議会報告会の時期を5～6月に固定し、市民に定着したため。 【改善点】今後は「5」に向けて、 4年という通任期を踏まえた議会全体の方針に基づいた市民懇談会等複数の手法を用いた広聴計画 により、更に市民が参加しやすい環境が必要。	4
	意見の活用状況	2	2	3	3	3	上昇	・上昇の要因	【要因】寄せられた意見を、所管事務調査のみならず、一般質問や議案、予算決算の審議等あらゆる場面で生かそうとする意識が議員に定着したため。 【改善点】今回は意見を活用する仕組みである議会サイクルを構築したことから「4」とし、今後は「5」に向けて、 意見を生かす意識だけではなく、生かすための仕組みが必要であり、構築した議会サイクルの実践が欠かせない。	4
課題解決能力	各委員会の所管事務調査報告の内容	2	2	3	4	4	上昇	・上昇の要因	【要因】議会内での共有に重きを置く調査ではなく、調査内容に提言的要素を盛り込もうとする意識が議員に定着したため。 【改善点】今後は「5」に向けて、政策提言の工程として議会基本条例に盛り込んである政策討論会及び政策検討会の要綱の作成など、具体的仕組みづくりが欠かせない。	4
	市民参加との関連性	3	3	3	3	3	停滞	・5年の取組内容 ・上昇しなかった理由	【要因】5年間、寄せられた市民の意見から課題解決につなげようとの意識は定着したが、今まで実施したことのない取り組みであり、実現に向けて試行錯誤の最中であるため、政策提言を行い課題の解決までは至っていない。 【改善点】今後に向けては、課題の本質を今まで以上に的確に捉え、より調査の内容を充実させ、解決に向けた提言を行う必要がある。	3
	議会独自の視点	3	3	3	1	1	下降	・5年の取組内容 ・下降の理由	【要因】市民の意見から吸い上げた課題についての調査が主となり、議会独自の視点での調査にまで至らなかったため。 【改善点】政策体系にない独自の項目として「地産地消」の調査を行ったものの、市民の意見から吸い上げた課題ではなく、結果課題の解決には至らず議会内の共有にとどまったため「2」とするが、議会独自の調査が必要ない場合も想定されるため、今後評価項目・内容について要検討。	2

意思決定能力	議案審査に資する委員会の内容	3	3	3	3	4	上昇	・上昇の要因	【要因】予算決算の審査において、所管事務調査との連動や、決算と予算の連動の意識が議員に定着したため。 【改善点】自由討議も実施し、複数の手法で論点整理も行ったが、今後「5」に向けて、 専門委員会単位での協議内容を共有した後、全体での議論から論点を浮き彫りにし、分野別審査後の振り返りから議会としてすべきこと(決議等の必要性)を合意形成することが必要。	4
	市民参加や課題解決との関連性	3	3	3	4	4	上昇	・上昇の要因	【要因】市民の意見を様々な場面で生かそうとする意識が議員に定着したため。 【改善点】請願に対して特別委員会を設けたり、議案に対する付帯決議を行ったりし、十分に関連付けた取り組みとして成果が出ている。従来「4」ととどめていたが、今回は「5」に値すると思われる。	5
	請願の審査	4	3	3	4	3	停滞	・5年の取組内容 ・上昇しなかった理由	【要因】請願審査の際に、様々な立場の方から意見を聞くのが理想の「5」ではあるが、実際の審査時にはその必要性がないものも多く、結果「4」にも該当しない年があった。 【改善点】今回は議会全体としてそこまでの審査の必要性なかったため「3」とするが、今後評価項目・内容について要検討。	3
透明性	関連資料の公開	2	3	2	2	2	停滞	・5年の取組内容 ・上昇しなかった理由	【要因】極軽微な誤りが1か所でもあれば「2」以下としていたため。 【改善点】この評価基準では、見やすさの工夫等が評価結果に反映されないため、今後評価項目・内容について要検討。今回は極軽微な誤りはカウントせず、 さらなる見やすさの工夫などの余地がまだある ことから「3」とする。	3
	政務活動の公開	3	3	3	3	3	停滞	・5年の取組内容 ・上昇しなかった理由	【要因】政務活動費の支出内容について、会派の支出科目単位での金額一覧表を公開するにとどまっていたため。 【改善点】現在は領収書の写しをホームページに掲載しているほか、シートを用いて活動の目的・内容まで公開していることから「4」とした。今後「5」に向けては、成果を明確にすることとなるが、「成果の基準」について要検討。	4
	発信媒体	3	3	4	4	3	下降	・5年の取組内容 ・下降の理由	【要因】視覚障がい者への配慮について、継続して実施しているが、昨年はその内容を把握できずに評価したと思われる。 【改善点】現在も引き続きテープ(CD)を作成・配布しており、ホームページも朗読も可能となっているため「4」とした。今後に向けてフェイスブックの活用は是非も含めて検討が必要であり、評価項目・内容について要検討。	4

●議会評価の見直し関連(表中、小項目着色部)

- ⇒ 議会独自の視点:評価項目としての是非
- ⇒ 請願の審査:複数の立場からの意見聴取は必要性がある場合のみであり、評価することの是非。
- ⇒ 関連資料の公開:軽微な誤り1つをもって評価を決定付け、他の視点の入る余地がないことの是非。
- ⇒ 発信媒体:情報発信のツールとして、フェイスブックを使用することの可否。あるいはそれを評価項目とすることの可否。

●今後に向けて取り組みを強化すべき項目(表中、下線部)

- ⇒ 議会の基本方針の構築と、その内容を踏まえた通年期での広聴計画の策定。
- ⇒ 構築した議会サイクルの確実な運用により、具体的な成果を出す。
- ⇒ 決算と予算の連動、所管事務調査と予決審査の連動。専門委員会から全体への議論と論点整理。全体で総括し、何らかのアクションの必要性を検討。
- ⇒ 議会だよりの、さらなる見やすさの工夫。